

<大賞 1団体>

■ 特定非営利活動法人 ハートフレンド (大阪)

「子どものわが町探検事業～清掃活動と防犯マップづくりを通じて～」

<p>団体概要</p>	<p>2003年、地域の仮設消防署の建物あとを利用し、連合振興町会の協力を得て母親達が任意団体として発足。地域子ども教室推進事業などで活動を広げ、2006年に法人格を取得。つどいの広場事業で乳幼児親子のつどいの場を日常的に開設した。それと共に、基礎学力向上のために大人が子どもに勉強を教える「てらこや」や「子ども茶道教室」などの文化活動、さらには高齢者が計算や漢字を学ぶ「おとなのてらこや」では認知症防止や介護予防の取組みも実践している。乳幼児親子から高齢者までが集える、「地域の人に優しい居場所づくり」を目指して活動を展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、小学校区の1年～6年生の約100名を対象として、自分達の住む町を知るための清掃活動を実施し、同時に子どもの目線による防犯マップを作成するものである。子ども達が、地域の人に喜んでもらう清掃活動をすることで、多くの大人と出会って地域を身近に感じ、どうすれば自然を守ることができるかや身近な課題を考える。また、子どもが主体性を持って、自分の町を探検して防犯マップを作成することで、危険を回避する力を身につけることを目的とする。これまで培ってきた地域での子育て支援の実績と子どもとの関係性を活かしつつ、環境や防犯・防災の視点を加えた新しいまちづくり事業である。</p>
<p>講評</p>	<p>子ども達の成長を育むには、家庭だけでなく、地域の役割が重要であることは言うまでもない。本事業は、子どもたちが自らの目で、防犯マップの作成のために地域を歩き、その際に清掃活動もするという、複合的な要素を組み合わせる相乗効果につながるダイナミックなものである。その先進性と創意工夫、子どもと地域の双方への効果・波及性、さらには小学校、PTA、町内会などの地域の関係諸団体からの協力など市民の参画と資源の活用といった視点からも非常に高い評価となった。子ども目線で作成する防犯マップには、大人が気付かなかった点がたくさん盛り込まれることが予想され、今回の受賞をきっかけに本事業を継続・発展させ、これからの地域での子育て支援のモデルとなって欲しい。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 特定非営利活動法人 エスビューロー (大阪)

「小児がん患児・兄弟姉妹のための『こども医療学習』の開催事業」

<p>団体概要</p>	<p>「コミュニケーション&コミュニティ」をスローガンに、小児がんの子どもの闘病経験を持つ親と医療者が中心となり、2000年に設立。翌年、患者側と医療者側の相互理解の促進、および患児家族のQOL向上を目的に法人格を取得。患者家族のための医療学習、セミナー、親の会などを開催する。また、セカンドオピニオンや病院選択への電話・Eメール相談、小児がん患児が円滑に復学するための復学支援など、専門性を活かしたきめ細かい事業を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業では、2009年8月に開催する小児がん・脳腫瘍全国大会3日目に、親が講座に出ている時間に、小児患児およびその兄弟姉妹を対象として、病気や治療の正しい知識、考え方を学ぶ「こども医療学習」を開催するものである。医師が教師役となり小児脳腫瘍と小児白血病との2教室に分かれ、大学生の協力を得て実施する。これによって小児がんという病気に対する誤解や偏見を払拭し、患児自らが必要な配慮を主張できるようになることで精神的・社会的苦痛の軽減に繋げ、子どもの健全な成長を応援する。</p>
<p>講評</p>	<p>小児がんや小児白血病の子ども達は、病気の身体的苦痛に加えて、「うつる病気」などの迷信や偏見による精神的苦痛、そして学校という場での社会的苦痛もあわせて背負わされている。本事業による学習は、親が抱える告知の問題にも対応し、偏見や迷信を払拭する意義の大きいもので、社会ニーズへの対応性と効果が高く評価された。また、2008年に行った患児同士や大学生との交流プログラムでの課題を受けて、本事業に発展させており、市民団体の柔軟性や課題への向き合い方にも示唆に富んでいる。</p>

■ 特定非営利活動法人 和歌山芸術文化支援協会 (和歌山)

「ドキドキ少年撮影隊ワークショップ・加太編」

団体概要	<p>1985年に発足した企画グループでの情報誌制作の中で、和歌山の文化・歴史を改めて認識し、まちづくりにも参加してきた。2001年にそのメンバーが中心となり、子ども達の未来のために感動を共有できる場づくりを目指して、建築家・舞台美術家などの様々なジャンルの専門家が集まって当団体を設立。アートの諸活動と共に、アーティストも少なからず子どもの成長に責任を負う時代がきたと考え、子ども向けのワークショップなどを実施している。</p>
事業概要	<p>本事業は、夏休みの二日間に友ヶ島の自然体験や加太の街並み探索を、プロの写真家によるナビゲートのもと、小学校高学年から中学生までの約20名が、アート体験をするものである。子ども達は歩きながら自然と街並み、そこに暮らす人々を自由な視点で学び、デジタル一眼レフカメラで撮影する。また、カメラ原理などを学ぶレクチャーと共に、作品発表と意見交換することで見せる立場まで味わう。写真というアートに触れる事で、自己表現の大切さと街の魅力の再発見に繋げていく。</p>
講評	<p>子どもが体を使って表現する機会が少なく自己表現能力の低下が指摘されている現在、技術の習得がなく取り組めるツールである写真を使い、プロの写真家と一緒に体験できる本事業は、子ども達に貴重な機会を創るものである。緻密に考えられた計画での実効性の高さだけでなく、レクチャーの為にカメラの原点であるピンホールカメラを作るなどの創意工夫が随所にちりばめられている。日本では財源の問題で、アート活動を民間で進めることが難しい中、本助成を有効に活用して今後も面白いアートを継続して欲しい。</p>